

H12 決算見込みを公表

不景気のあおり受け 苦しい台所事情

右のグラフCは一般会計の歳入の推移を表したもので、平成十二年度は、地方交付税交付金が増加したほかは全て減少しています。これは介護保険制度の創設に伴い、老人福祉関係の補助制度が廃止されたことや、満日小学校の改築事業などの大規模な補助事業が終了したことが大きな理由です。

市税の推移を見ると、ここ数年はほぼ横ばいで、バブル景気のような右肩上がりの税収増が望めないことが分かります。

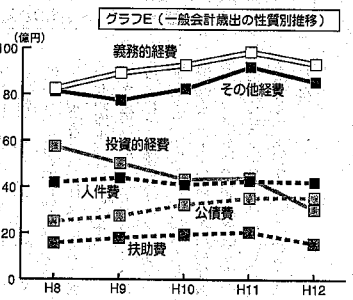
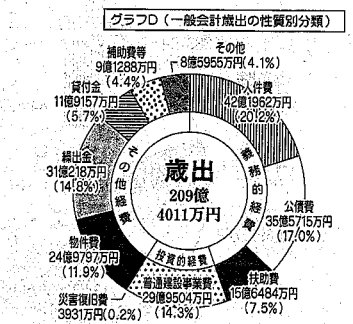
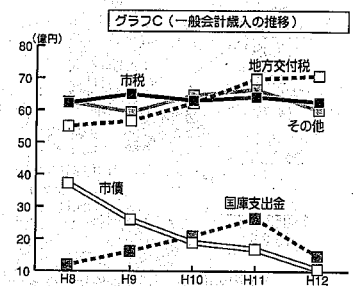
効率的な行政運営で経費節減に努力

右のグラフDは、歳入の性質別分類の推移を表したもので、平成十二年度は、義務的経費で減少していることが分かります(グラフの実線部分)。

義務的経費とは、人件費、公債費、市債の償還に充てられる、扶助費(生活保護など)と社会保障(子どものための経費)の主に三つで、支出を義務づけられ任意に削減できないという性質を持ちます。この義務的経費の割合が高くなる、自由に使える資金が少なくなった、社会や経済の変化に対応した事業を行うことが難しくなります。

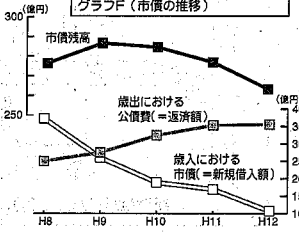
市債は単なる借金ではなく財産でもある

市債は、道路や施設などの建設に一時に必要となる多額の費用の負担を長期に分散させて年度間の調整を図ろうとするものです。また、できた施設などは将来の市民にも活用されるので、世代間で経費を公平に負担することにもなります。



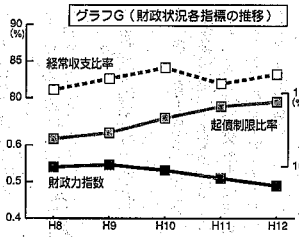
見ると悪化!? いえ、大丈夫です

左のグラフBは、市の財政状況を表す各指標の推移を表したものです。まず、市町村の財政力を判断する一般的な指標として財政力指数というものがあります(数値が大きければ財政力が高いほど財政力ゆとりがある)。新津市の場合



四八程度となっている

次に、財政の硬直度を判断する指標として経常収支比率というものがあります(数値が大きければ財政が硬直的になっていく)。新津市の場合、八〇%を超え、自由に使えるお金が少なくなっています。



事業別の市債現在高 見込み (平成13年3月31日現在)

Table listing various municipal projects and their estimated remaining debt as of March 31, 2001. Projects include cleaning centers, roads, childcare facilities, etc.

Advertisement for life insurance and financial services, including '国民年金や簡保からも融資' and '厚生年金や簡保からも融資'.

Advertisement for municipal assets including land (2,134,756㎡), buildings (203,794㎡), and funds (49,554,400 yen).

政を圧迫しているのかを示すものに起債制限比率というものがあります(数値が大きければ財政が圧迫されている)。一六%を超える黄色信号とされ県の指導を受けながら、新津市の場合は一四%台に達しています。

明日は苦しくても明日のためにダイエツト!!

将来、社会の少子高齢化が進むと新たな社会資本の整備をする力が不足することが心配されます。今は苦しくても、次世代に回す負担を減らしつつ、その一方では積極的に整備するという姿勢が求められています。

Advertisement for Kawara Industry (関口瓦工業) featuring 'New Release Special Max Light Weight Tiles' and contact information.

Advertisement for 'Summer Seal' (盛夏セール) featuring 'Café' and 'Deli Casa' with various offers and dates.

Advertisement for 'AFIAC' (Amefam) life insurance, featuring 'This is how you live in the 21st century' and 'Our cancer insurance'.